



令和 4 年 2 月 1 日

西日本豪雨災害後に精神症状に使われる漢方薬（抑肝散）の
処方を受けた高齢者が増加 ～ ビッグデータを用いた分析 ～

論文掲載

【本研究成果のポイント】

- ・ 広島県を中心に発生した西日本豪雨災害に被災した高齢者において、漢方薬の一種で精神症状に使われる「抑肝散」の処方が増加していたことが明らかになりました。
- ・ 我が国では、災害時における高齢者医療に漢方薬が大きな役割を果たしている可能性が示されました。

【概要】

広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座 石田亮子講師、吉田秀平助教、松本正俊教授、先進理工系科学研究科 鹿嶋小緒里准教授、北広島町八幡診療所 岡崎悠治医師は、医療レセプトデータを用いた解析により、2018 年西日本豪雨災害の 65 歳以上の被災者において、精神症状や BPSD と呼ばれる認知症周辺症状の改善に用いられる漢方薬である抑肝散の処方を受けた人が、非被災者に比べて有意に増加していたことを明らかにしました。この研究成果が国際学術誌「Frontiers in Nutrition」に掲載されました。

論文掲載

本研究成果は 2022 年 1 月 24 日に、学術雑誌 「Frontiers in Nutrition」に掲載（オンライン）されました。

掲載誌：Frontiers in Nutrition

DOI : <https://doi.org/10.3389/fnut.2021.777330>

論文タイトル：The 2018 Japan Floods Increased the Frequency of Yokukansan Prescriptions Among Elderly: A Retrospective Cohort Study

著者名：Ryoko Ishida, Shuhei Yoshida, Saori Kashima, Yuji Okazaki and Masatoshi Matsumoto

【背景】

我が国は世界的に珍しく、医師が伝統医薬である漢方薬を公的保険制度の中で処方することができます。一般に漢方薬は慢性的な症状に対して使用されます。

しかし、自然災害という緊急時において、どのような種類の漢方薬がどの程度使用されているかは明らかではありませんでした。本研究は厚生労働省の許可と広島大学倫理委員会の承認の下、西日本豪雨災害の被災規模が大きかった岡山県、広島県、愛媛県の医療レセプト（診療報酬明細書）データを分析し、65 歳以上の住民の漢方薬処方量、特に精神症状や認知症周辺症状に最もよく使用されている漢方薬である「抑肝散」の処方量の変化を災害前後の 1 年間で評価しました。

【研究成果の内容】

調査期間中に岡山、広島、愛媛の 3 県に所在し、かつ医療機関を受診した 65 歳以上の住民 1,372,417 人を対象者とししました。このうち居住自治体から被災者と認定された 12,787 人 (0.93%) について、被災後 1 年間で新規に抑肝散を処方された

のは125人(0.98%)で、非被災者8,913人(0.66%)と比較して有意に高い割合で処方されていました(ハザード比:1.49、95%信頼区間:1.25-1.78)。

また、対象者のうち、抑肝散とそれ以外の漢方薬処方を受けた対象者の増加率を災害前後で比較したところ、被災者、非被災者ともに、災害前に比べて災害後に漢方薬処方が増えていました。さらに被災者に於いては抑肝散の増加率(31.4%)がその他の漢方薬の増加率(19.3%)に比べて高いことが明らかになりました(p値<0.001)(参考図)。

本研究の結果から、自然災害によって高齢者のあいだで、漢方薬の適応となる各種症状、特に興奮、イライラ、認知症周辺症状などの出現頻度が増加し、医師による漢方薬処方、特に抑肝散の処方が増加していた可能性が示されました。

【今後の展開】

漢方薬は制度的にも文化的にも日本の医療に深く根差した薬剤であり、また通常の西洋薬に比べて副作用も少ないといった利点があります。こういった背景から高齢者に好まれ、特に高齢者が健康被害を受けやすい自然災害時において使用量が増加するものと推測されます。こういったエビデンスを踏まえ、我が国固有の災害対策や診療ガイドラインが策定されることが期待されます。

【用語解説】

抑肝散：抑肝散は、神経症、不眠などに効果がある漢方薬で、興奮やイライラなどの症状、特に高齢者の認知症周辺症状によく処方されています。

【参考図】

	災害前1年間 (A) n	災害後1年間 (B) n	増加率 (B-A)/(A) %	p値
被災者				
抑肝散	226	297	31.4	<0.001*
抑肝散以外の漢方薬	3,448	4,113	19.3	
非被災者				
抑肝散	30,269	30,226	-0.1	<0.001*
抑肝散以外の漢方薬	416,431	412,353	-1.0	

* 抑肝散とそれ以外の漢方薬の増加率の差を比較したプロポーションテストによる

図：災害前後における抑肝散とそれ以外の漢方薬の処方人数の比較（p値が0.05以下である場合、統計学的に有意な違いがあることを示しています）

【お問い合わせ先】

<研究に関すること>

広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座

石田 亮子

Tel: 082-257-5894 FAX: 082-257-5895

E-mail: rishida228@hiroshima-u.ac.jp

<報道に関すること>

広島大学財務・総務室広報部広報グループ

Tel: 082-424-3701

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）